

第3回庄内町立図書館協議会 会議録

開催日時 令和2年2月25日(火) 午後6時00分 開会
午後8時00分 閉会

開催場所 庄内町立図書館 2階自習室

出席者	出席委員	6名	小野寺姫、仲條一志、松田透、館林由美子、安藤一雄、奥山洋子
欠席者	欠席委員	1名	信夫幸
事務局	社会教育課	課長	上野英一
	庄内町立図書館	館長	渡會晃
	庄内町立図書館	主査兼係長	佐藤晃子
	庄内町立図書館	主任	横田祥子

議事日程

1 開会 図書館長

本年度事業の総括、次年度の事業計画案についての審議をよろしくお願ひしたい。

2 あいさつ

図書館協議会委員長

暖冬で雪も少なく、雪を越さないと春になった実感がない中、最近の新型コロナウイルスなど想定外のことが起こり、歴史的な異変の只中に今いることを実感する。皆さんも健康に留意され、本日の審議をよろしくお願ひしたい。

3 協議事項

(1) 令和元年度庄内町立図書館・内藤秀因水彩画記念館における事業総括について

《事務局説明》

委員長 多くの資料について具体的で分かりやすく説明していただいた。質疑を行います。

委員 読書感想文コンクール事業の廃止における校長会の意向としては、読書感想文は子どもたちの読書活動の推進の上では非常に大事な活動と認識しているが、読書感想文を書くという活動が授業にないため全ての児童への指導時間確保が難しい。夏休みの選択課題のひとつとして読書感想文をとらえ、読書感想文を出品したい児童は、鶴岡田川地区や全国的なコンクールに出品することも可能であるため、図書館と協議し庄内町の事業の見直しをしたい。

委員長 その他の事業についても確認したいことがあればご発言ください。

委員 参加者が2組しかいなかったのはどの事業か。他の事業にはどのくらい参加していたのか。

事務局 商工会主催事業「まちゼミ」に参加し、大人対象の気軽な「BOOK カフェ」を初開催した。2組だけだったが必要性を感じた。新しい図書館の運営に向けて今後も実施を考えていきたい。他の事業としては、北月山荘での庄内町地域おこし協力隊とのコラボイベントを実施し、何十組もの参加をいただいた。

委員 BOOKカフェでは、読書歴や感想を語り合うのか。

事務局 お薦めの絵本を2冊程度相互に紹介し合い、読書歴を肩肘張らずに日常会話的に語り合った。

委員長 個に焦点をあてた企画も必要であり、実施することができてよかった。

委員長 レッツクッキング事業の合同開催は、世代が広がる場合や同世代が集まる場合の活動を吟味した方がよい。子育て支援の乳幼児対象事業と公民館の小学校高学年くらいまでの対象事業では活動が異なると思われる。行政の都合で短絡的に統一することはあまりよくないのではないか。

事務局 事業実施の活動やその目的を吟味し、省力化や経費削減が一番であってはならない。我々の最終的な目標である「子どもたちの読書の習慣化」を目指した事業内容となるよう慎重に検討したい。

委員 ブックスタートや読み聞かせ会等で図書利用カードの交付は来館のきっかけになる。例えば、つちだよしはるさんの絵が描いてある魅力的なカードであればさらに効果的ではないか。

委員 図書利用カードは発行年度で模様や絵柄が変わるのか。

事務局 旧余目町時代の「ひまわり」のデザインを合併時に「町章」に変更し、現在も継続している。

委員 読書通帳とはどのようなものか。

事務局 個々の読書履歴が記載されるものであり、導入した図書館では子どもたちに非常に人気がある。設備の初期投資に大きな経費がかかるのが課題である。

委員 借りた書籍を購入した場合の金額が記載される読書通帳もあるようだ。

委員長 次に、次年度の事業計画（案）について説明してください。

- (2) 令和2年度庄内町立図書館運営計画（案）について
- (3) 令和2年度庄内町立図書館協議会年間計画（案）について
- (4) 令和2年度庄内町内藤秀因水彩画記念館運営計画（案）について

《事務局説明》資料に基づき一括説明。

委員長 今年度の総括として新規事業が貸出冊数の増加につながらなかったという課題があったが、今度「絵のある図書館、本のある美術館」を実現する場合、水彩画記念館との連携でどう貸出冊数の増加につなげるのか。

事務局 新規事業を展開し、来館者を増やし、貸出冊数につなげる工夫は今後も継続していく。最終目標は、「地域における読書習慣の形成」だと考えている。

委員 読み聞かせ会でその場にいる親に本の貸し出しをすれば絵本を手にする子どもが増えるのではないかと。また、「絵のある図書館、本のある美術館」を具現化している事業として現在「つちだよしはる絵本原画展」があるが、「本のある美術館」としての具体的なアイデアは何かあるのか。

事務局 「絵本原画展」は図書館と美術館の機能の相乗効果を発揮できる事業である。図書館の基本設計の中で図書館に居ながらアートを感じる空間づくりや記念館で寛ぎながら美術関係の本を読むことができる空間づくりを構想し、図書館・記念館の併設効果を実現していきたい。

委員長 図書館整備ワークショップで図書館に水彩画を展示することのリスクや記念館で本を読むには照明が暗い等の具体的な問題が出ている。本来の図書館機能や美術館機能を大切に、絵を観た後で図書館を利用するような両施設の行き来を活発にする誘導や案内の仕組みを工夫してはどうか。

事務局 図書館ワークショップで問題になった絵の照度コントロール等のリスク管理について実施設計の中で実現に向けた検討をしていく。

委員 内藤秀因の名前があまり知られていないイメージを持つ。常設展示場に引き込むための方法が必要である。記念館に美術の本を配置するだけでは不十分であり、いろいろ組み合わせないと誘導できないのではないかと。

事務局 記念館の改修では内藤秀因へ一層フォーカスするというミッションがあるが、改修だけで来館者の急激な増加は望めないと考えている。魅力的な企画展示を展開し、企画展示を目的に来た人も必然的に常設展示の内藤秀因の絵にふれられるような運営を目指していきたい。

委員 狩川地区の人には内藤秀因という名前は魅力的なものになっていない。秀因の出生や経歴、画家としての業績やエピソード等の魅力的な部分が知られていない。内藤秀因の魅力をアピールするような発信がほしい。

委員長 内藤秀因という名前は割と定着していると思われる。

委員 名前は知っているが画家としての魅力がわからない。

館長 これまで彼の業績や人物像に関わる情報発信が不足していると認識している。彼が日本水彩画会の理事長として活躍したことや東京の上野の旧東京科学博物館（現国立科学博物館）の大壁画を描いたこと、庄内町立総合体育館の緞帳の原画を描いたことや彼が海外留学でフランスやヨーロッパで高く評価されたこと等、彼の業績やエピソードが十分伝わっていない。今後、藤沢周平記念館で発刊した藤沢周平の解説書のような内藤秀因の解説書を作り、町民や記念館を訪れた人に彼の業績を紹介していきたい。

委員 図書館だよりや広報に内藤秀因の紹介記事をシリーズ化し、それを冊子にまとめてはどうか。

館長 庄内水彩画会代表の佐藤光治氏が日本水彩画会の会報にシリーズで内藤秀因との交流エピソード等を執

筆しているので併せて冊子に掲載したい。

委員 庄内総合高校美術部とタイアップし、内藤秀因のエピソードを絵にしてはどうか。

館長 記念館改修後の渡り廊下の壁を活用した内藤秀因の紹介パネル等工夫していきたい。

委員長 内藤秀因に関する多様な発信方法はこれからも検討していきたい。他になければ協議を終了します。

4 その他

- ・庄内町立図書館整備事業（基本設計）について

《事務局説明》

- ・会計年度任用職員について

《事務局説明》

5 閉会